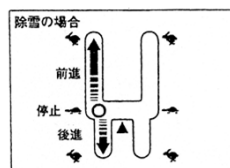


HST取扱いについて

操作上の留意点

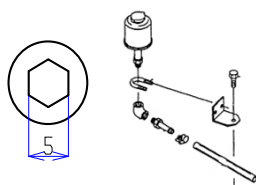
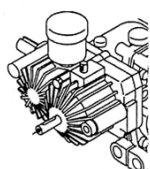
- 1 走行クラッチレバーが「移動」での除雪作業はHSTに能力以上の負担をかけます。HSTを傷めることになりますので やらないで下さい。
- 2 除雪作業時の走行速度は「低速」で行い、停止しないで走行可能な速さを選択します。HSTには一定の負荷をかける為。
- 3 高負荷連続作業での使用はHSTオイルが著しく温度上昇します。温度上昇が長時間続くとオイルの劣化が早まります。
- 4 温度上昇が80℃以上にならないようにします。



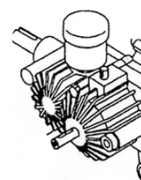
HSTオイルの取扱

- 1 オイルの点検は毎日行って下さい。
 - 2 オイルレベルを点検、確認し不足の場合は指定のオイルを注油して下さい。
 - 3 オイル点検は冷えた状態(20℃以下)でオイルの液面がレベル位置にあることを確認して下さい。
 - 4 オイルを入れ過ぎた場合、HSTが温まるとオイルが膨張しタンク等から溢れ出すことがあります。入れ過ぎないで下さい。
- 5 オイルタンクの種類**

- ① オイルタンク 乳白色樹脂製
ドレン 3/8 (ダイキン)
- ② オイルタンク 金属製
延長ホース形 ドレン 5mm (カヤバ) M10



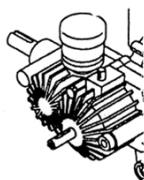
- ③ オイルタンク
金属製 直付け形



- ④ オイルタンク なし
注油ホース形



- ⑤ オイルタンク
クリーム色樹脂製 直付け形

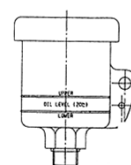


- ⑥ オイルタンク
クリーム色樹脂製 延長ホース形

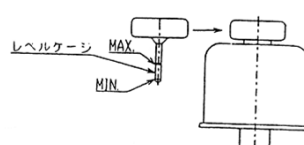


6 オイルレベルの見方

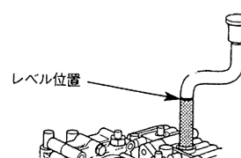
- ① オイルタンク 樹脂製
「UPPER」ラインと「LOWER」ラインの間に
オイルレベルがあること



- ② オイルタンク 金属製
「一」ラインと「二」ラインの間にオイルレベルが
あること



- ③ オイルタンク なし 注油ホース形
「一」ラインはオイルレベルの上限を示し油面が
ホース内の見える位置にあること



7 オイルの種類

油圧作動油(VG32相当品)

- ・モービル石油 モービルハイドロリックオイル28
- ・昭和シェル石油 テラスオイル32
- ・日石三菱 スーパーハイランド32
- ・出光興産 ダフニーハイドロリックフルイド32

8 その他

- ① このクラスのHSTはオイル封入形を使用しています
- ② その為HST本体のオイル量が規定量入っている事が必要で、オイルタンクはHSTをより長持ちさせる為です。

9 オイル交換について

- ① HST本体に水が混入したりオイルに異常がない限りオイルの耐用時間まで交換の必要はありません。
- ② HSTの機能が低下してくると走行速度の低下や、パワーが低下する等の症状が現れます。
- ③ より長持ちさせる為に工場出荷後70時間、それ以降は年一回(その年の使用開始時)又は、250時間の短い方での交換をお勧めします。

10 オイル交換のし方

- ① HSTコントロール軸の反対側にある排油プラグ(機種で異なる)を外し、HSTケース内のオイルを抜きます。
- ② オイルの抜けが悪い場合はタンクキャップを外すかエアブリーダを緩めて下さい。
- ③ エアブリーダは主変速シフトアームの下部にあります。ロールピンを外して主変速シフトアームを外します。
- ④ オイルが抜けたら排油プラグを規定締付トルク200kgfで締め付けます。
- ⑤ タンク給油口又は給油ホースから給油して下さい。
- ⑥ オイル量は規定のオイルレベルまで給油します。
- ⑦ エアブリーダネジ部よりオイルがにじみ出てきたらエアブリーダを規定トルクで締め付けます。
- ⑧ エンジン回転数アイドリング程度で慣らし運転をしてケース内や回路中のエア抜きをして下さい。
- ⑨ 慣らし運転後オイルの量を確認して不足油を補充して下さい。
- ⑩ 注油する際、粗大コンタミが入らないように、50ミクロン程度のフィルタを通して注油して下さい。
- ⑪ ケース内にオイルが充満していない状態で運転する事は避けて下さい。

11 目で見るオイルの判定法

HSTのケース内より採油し、試験管等の透明の容器に入れ新しいオイルと比較します。

	外観	状態	対策
1	透明で色彩変化がない	良	そのまま使用する
2	透明で小さな黒点がある	異物が混じっている	濾過してから使用する
3	乳白色に変化している	水分が混じっている	油を交換する
4	黒色に変化している	酸化劣化している	油を交換する

